

令和6年度 大阪市内市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	167	51	42	3.5	14.1
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	172	64.4	45.7	41.8	45.8	51.5	4.8	5.0	15.2	5.2	6.8
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9

※ 3年生の理科はB問題を選択

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、「思考力、判断力、表現力等」について、「書くこと」の領域において-7.5ポイント、「話すこと・聞くこと」の領域において-8.3ポイント、「読むこと」の領域において-7.5ポイントと、いずれの領域においても大きく下回る結果となった。一方、「知識及び技能」については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は-8.1ポイントと大きく下回ったが、「情報の扱い方に関する事項」は-3.9ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」は-1.9ポイントと全国との差が他の領域と比較すると少ない結果となった。また、無回答率については3.5%と、全国の3.7%よりも少なく、解答しようとする意欲の高さは見て取れる結果となった。

＜数学＞ 全国と比較して、「数と式」の領域において-10.0ポイント、「図形」の領域において-7.6ポイント、「関数」の領域において-6.1ポイント、「データの活用」において-16.1ポイントと、いずれの領域においても大きく下回る結果となった。特に全国との差が大きい「数と式」「データの活用」の領域においては、無回答率も全国と比較して高い数値であり、重点的に取り組んでいく必要性を感じる。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」における正答率を上げるために、漢字または語彙の小テストを毎時間実施し、定着を図る。

「読むこと」「書くこと」の領域における正答率を上げるために、授業の中で、生徒が主体的に本文を読みながら答えや根拠を探す練習や、表やグラフと文章を結びつける練習などに取り組む。また、単元の最後に、自分の意見や考えを文章として言語化できるように指導を行う。

＜数学＞

年間を通じて習熟度別授業を展開している。また、領域ごとにクラス編成を変更することで、苦手な項目にアプローチできるようにする。さらに、夏休みの課題から、公立入試の過去問に取り組んでいるところであり、何度も復習できるようにしていく。特に、「データの活用」については、文章を読み解く必要がある領域であり、復習する機会を増やすとともに、問題文の意味を理解できる授業展開を行う。

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞ 平均点の対府比が0.99(-0.8ポイント)であった。昨年度の対府比は0.95であり、向上している結果となった。「話すこと・聞くこと」においては0.1ポイントではあるが、府の平均点をわずかに上回ることができた。一方「知識及び技能」においては-0.7ポイントと下回っている。

＜社会＞ 平均点の対府比が0.91(-4.7ポイント)であった。分類別にみても、どの分類においても大阪府の平均を下回っているが、問題形式別にみると、「短答式」「記述式」においては大阪府との差が少ない結果となっている。地理的分野の平均点が大阪府と比較して-3.1ポイントと大きく下回っており、正答率の低い問題を復習するなど対応が必要である。

＜数学＞ 平均点の対府比が0.85(-7.3ポイント)であった。分類別にみると、「図形」「知識・技能」において、大阪府の平均と比較して大きく下回る結果となった。得点集計値をみると、15～19点の層が全生徒の14%と一番多く、引き続き習熟度別授業において、基礎的な学習内容について支援していく必要がある。

＜理科＞ 平均点の対府比が0.88(-6.6ポイント)であった。昨年度の対府比は0.75であり、向上傾向にある。「エネルギー」の領域において-0.6ポイント、「粒子」の領域において-2.2ポイント、「生命」の領域において-2.1ポイント、「地球」の領域において-1.6ポイントと、いずれの領域においてもわずかに下回る結果であった。

＜英語＞ 平均点の対府比が0.96(-2.1ポイント)であった。昨年度の対府比は0.93であり、向上している結果となった。全領域においてわずかに大阪府の平均を下回る結果となっているが、設問別にみると、大阪府の平均を上回っているものも多くある。今後、習熟度別授業等を行い、60～80点台の層を増やしていきたい。

【今後に向けて】

＜国語＞ 「知識技能」の向上のため、引き続き授業の開始時には、漢字テストや語彙に関するテストを行う。「書くこと」「読むこと」の観点においては、文章を正確に読み、本文を理解する。そして、自分の考えを言語化できるよう、授業でも工夫していきたい。

＜社会＞ 設問ごとの正答率を大阪府と比較して、約10ポイント以上上下回るもののほとんどは知識技能の観点であり、地理的分野では、縮尺の計算・世界地理の範囲で、歴史的分野では、古代から中世にかけての範囲が多かった。そこで、特に1年生で履修した範囲を中心に、復習プリントを廊下等に常設して自主学習の手助けをしたり、デジタルドリルに取り組ませたりしていきたい。

＜数学＞ 入試対策を意識した習熟度別授業を展開していく。特に、大問□の計算全般や基礎問題を中心とした問題演習の量をこなすクラスと公立高校特有の問題や長文問題などの応用問題をこなすクラスに分割して、入試対策の学習を進めていく。

＜理科＞ 昨年度に比べて対府比は向上しているが、4分野において大阪府の平均を下回っている。特に「粒子」「生命」分野については、2ポイント以上低くなっているため、3学期は復習にも力を入れていきたいと考えている。

＜英語＞ リスニングの力は比較的ついていっている一方で、ライティングとリーディングの力が不足しているという結果になった。特に、会話文での読み取りや動名詞の使い方などを苦手としている。今後、教科書以外の英文に触れさせ、英文読解に慣れさせたい。また、2年生で学習した文法についての復習にも取り組んでいきたい。

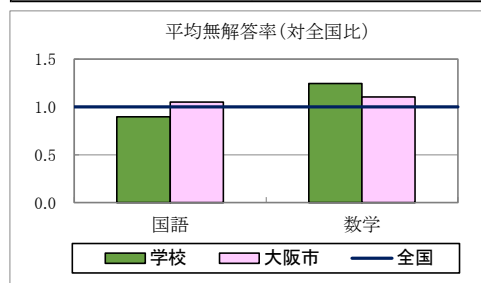
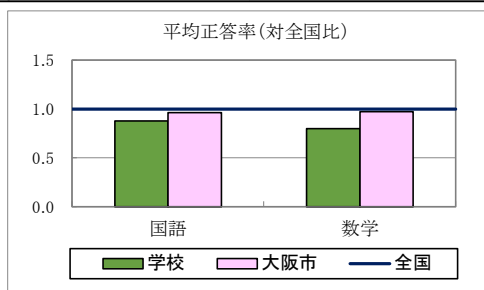
令和6年度 大阪市立市岡中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	51	42
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	3.5	14.1
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3

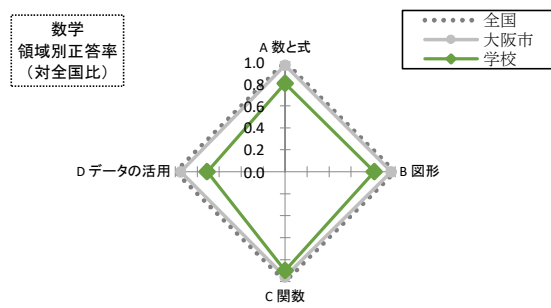
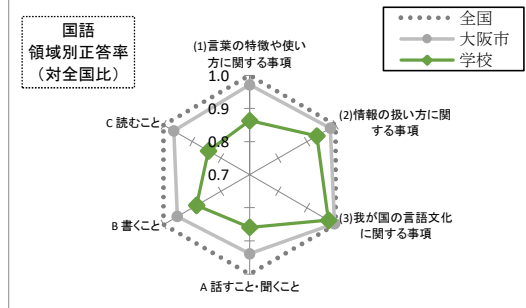
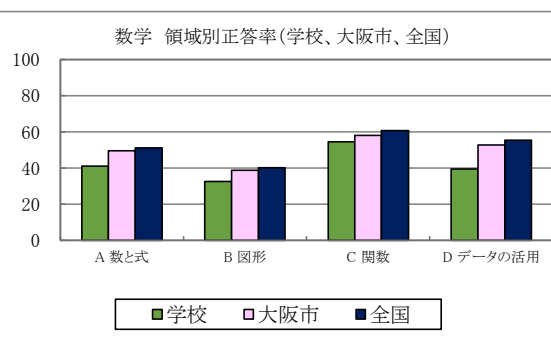
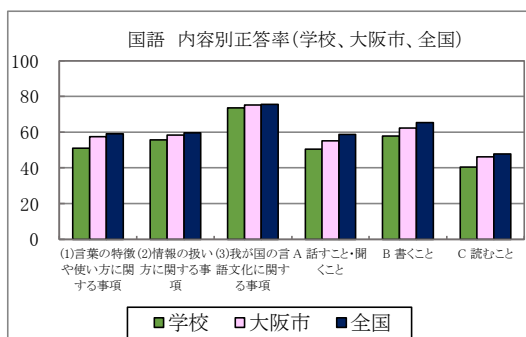


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	51.1	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	55.7	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に 関する事項	1	73.7	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	50.5	55.2	58.8
B 書くこと	2	57.8	62.2	65.3
C 読むこと	4	40.4	46.2	47.9

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	41.1	49.6	51.1
B 図形	3	32.7	38.9	40.3
C 関数	4	54.6	58.1	60.7
D データの活用	4	39.4	52.8	55.5



令和6年度 大阪市立市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

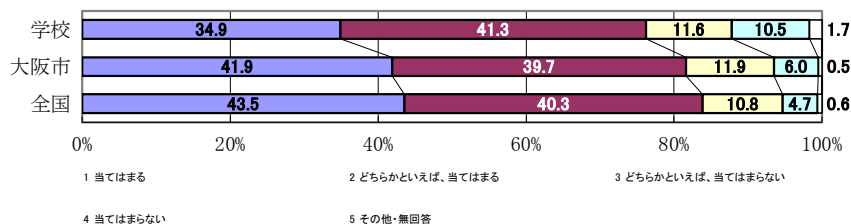
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

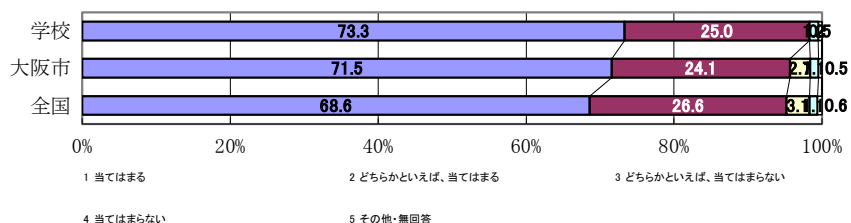
16

学校に行くのは楽しいと思えますか



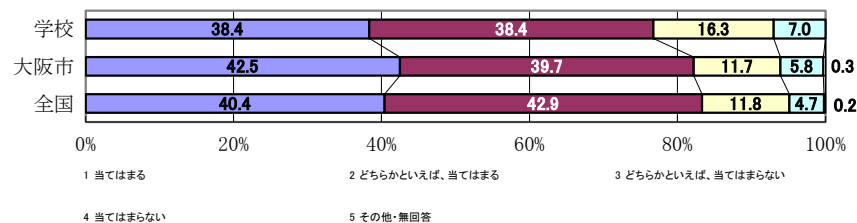
15

人の役に立つ人間になりたいと思えますか



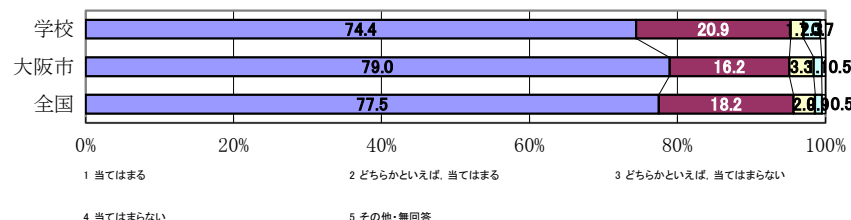
9

自分には、よいところがあると思えますか



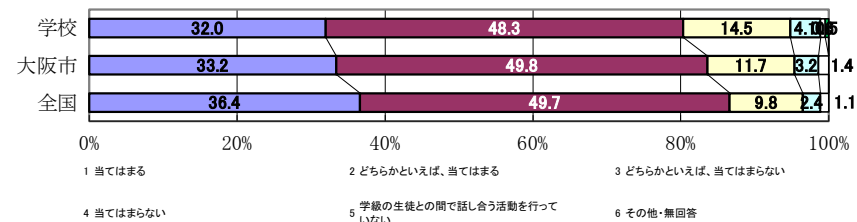
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



33

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



令和6年度 大阪市立市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



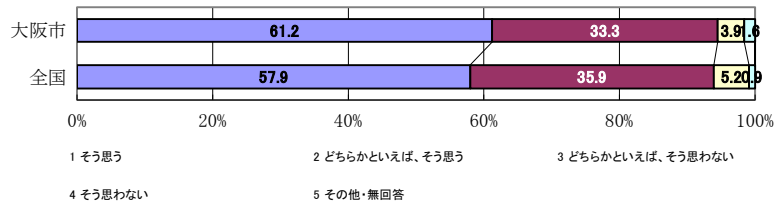
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

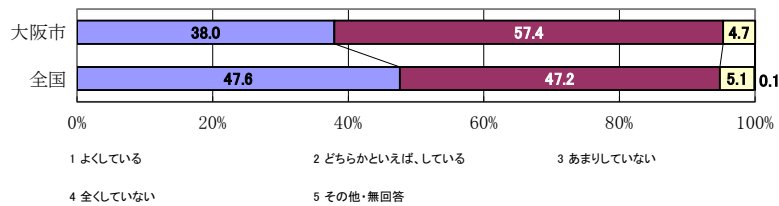
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

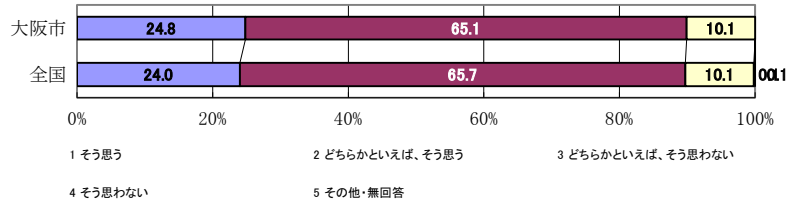
学校 「どちらかといえば、している」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

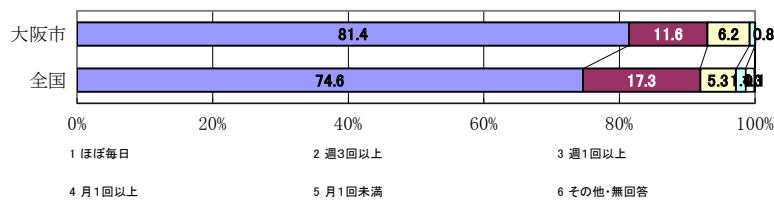
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



57

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



62

調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「月1回以上」を選択

